支援者のための方言パンフレット作成とその有用性

坂喜美佳・小原雄次郎（東北大学大学院生）

1｜はじめに

被災者

方言による問題

支援者向け
方言パンフレットの作成

医療関係者、行政関係者、自衛隊、ボランティア

被災地外からの支援者

2｜パンフレット作成の目的

Ⅰ．被災地域へ駆けつけた支援者に被災地の方言を理解してもらうこと

Ⅱ．支援者と被災者の間の意志疎通の手がかりとして役立ててもらうこと

3｜パンフレット作成の手順

(1)気仙沼市方言の予備知識の収集

(2) 気仙沼市での聴き取り調査

ボランティアセンターにて
がれき撤去ボランティアの方にインタビュー

(3) 原案の作成

(4) 関係者による点検

(5) 最終版の作成

(6) 配布

避難所にて
佐賀県の方に配布

(7) 評価

アンケートを配布、
メール等でも評価

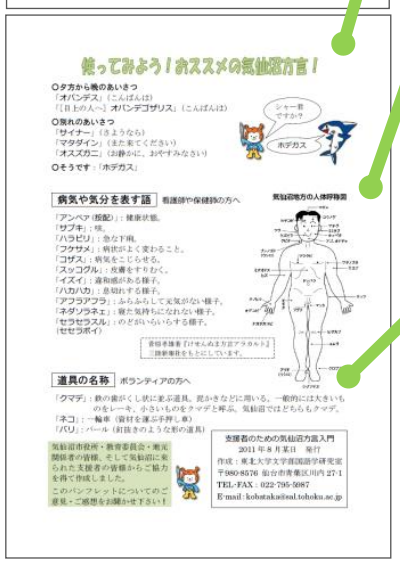
原案を点検してもらうことで…

別れのあいさつだと、
「オスズカニ」は年配の方で、
私たちは「サイナー」をよく
使うなぁ。

「サイナー」を
新たに追加！

のように、地元の方でないと分から
ないところの改訂ができた。

4 ｜パンフレットの内容



①「このパンフレットをご覧くださる方へ」＝パンフレットの目的

point!

・親しみやすさを込めて、気仙沼市のキャラクターである「ホヤぼーや君」と「シャー君」を取り入れた。

ホヤぼーや君

シャー君

②「気仙沼方言の位置」＝全国の中での気仙沼方言の位置づけ

③「気仙沼方言って、どんな方言？」
＝発音・文法・単語のわかりにくい、もしくは注目すべき

point!

・専門用語は使わず、平易な言葉を使用。
　例）音韻・音声→発音／語彙→単語
・できるだけ文章による解説を避け、例文で示した。
・作成した例文は、被災地の方に校正していただいた。また、実際に被災地で聞かれた文も取り入れた。
・実際に支援者から聞かれた声を反映させている。
　例）地名の「鮪立（しびたち）」が「スビダヅ」に聞こえた。
　　「救急車」が「チューチューシャ」に聞こえた。

④「使ってみよう！おススメの気仙沼方言」
＝被災者との心理的距離を縮めるための挨拶や応答

⑤「病気や気分を表す語・人体呼称図」＝看護師や保健師のためのコーナー

⑥「道具の名称」＝がれき処理等のボランティアのためのコーナー

5 ｜パンフレットに対する反応

6 ｜おわりに

・この方言パンフレットの試みは、支援者のニーズをもとに原案を作成し、**地元関係者の意見や感想を取り入れて改訂**を行った。

・今回のパンフレットの完成は地震発生後、5 か月を経過してからである。その緊急性から考えれば、**より早く作成して支援者に届ける必要**があった。

・この試みが一つの見本となり、他の地域でも実現されることが期待される。また、災害が起こる前から、行政等の関係部署とも連携しつつ、地域ごとにこのような**方言パンフレットを準備しておく**ことも今後の課題である。